

繰り返し訪れたくなる“にぎわい”のまち
ずっと暮らし続けたい“ふれあい”のまち
中央区



大阪市 中央区将来ビジョン2023－2027（案）

中央区将来ビジョン2023－2027（案）

もくじ

中央区将来ビジョン2023－2027（案）について	1
中央区の概要	3
まちづくりの方針	10
めざすべき将来像と戦略の方向性	12
施策を推進していくために	30

中央区将来ビジョン2023－2027について

はじめに

中央区は長い歴史と文化に彩られた魅力あふれるまちです。近年は人口が増えるとともに国内外から多くの観光客が訪れ、まちは活況を呈してきました。

一方、都心回帰による急速な人口増とライフスタイルの変化は、まちに新たな価値観をもたらし、人々のつながりのあり方も多様化しています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大により、まちのにぎわいは大きなダメージを受けており、回復はもとより、さらにその先に向けた取組が求められています。

この「中央区将来ビジョン2023－2027」では、こうした社会情勢の変化に対応し、区政を着実に推進していくため、「繰り返し訪れたくなる‘にぎわい’のまち、ずっと暮らし続けたい‘ふれあいのまち’」を新たにめざすべき将来像とし、その実現のための戦略の方向性を定めました。

2025年には、いのち輝く未来社会のデザインをテーマに「大阪・関西万博」が開催されます。多様な魅力あふれる中央区に誇りと愛着を持って暮らせるよう、区民のみなさまとともに未来に続くまちづくりを推進してまいります。

中央区長 稲嶺一夫



中央区将来ビジョン2023－2027について

将来ビジョンについて

- 中央区将来ビジョンは、区政を運営していく上で、区のめざすべき将来像とその実現に向けた施策展開の方向性などをとりまとめ、区民の方々に明らかにするものです。
- 計画期間 令和5年（2023年）から令和9年（2027年）

- 将来ビジョンにかかる取組みはSDGsの理念に基づいています。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



中央区の概要

■ 中央区の誕生

中央区は、旧東区と旧南区の合区により平成元年2月13日に誕生しました。わが国初の本格的な都城である難波宮から、近世の大坂城築城を経て今日に至る長い歴史を有するまちです。

■ 旧東区と旧南区

明治12年2月10日、旧東区と旧南区が発足。その後、明治22年の市政施行により大阪市に。市の中枢に位置する両区の発展は市勢発展の歴史と重なります。

■ 中央区の今

江戸時代到大阪の商業の中心だった流れを汲み、今も経済活動が活発に展開され、国内外から多くの人々が訪れ、賑いを見せています。また、区内各所には、大阪城、難波宮跡をはじめ由緒ある寺社、近代的建造物等の歴史的遺産が数多く存在し、文楽や、能楽、上方芸能といった伝統文化が息づく、大阪を代表する経済・文化の中心地となっています。一方、都心部でありながらも、地域の活動も活発であり、昔ながらのコミュニティが育まれています。



面積8.87平方キロメートル
(平成26年10月1日現在 国土地理院発表)
世帯数：72,041世帯
人口：109,647人
(男：51,393人 女：58,254人)
【令和4年7月1日現在】

中央区の概要

御堂筋を中心としたオフィス街。活発な経済活動が行われている。

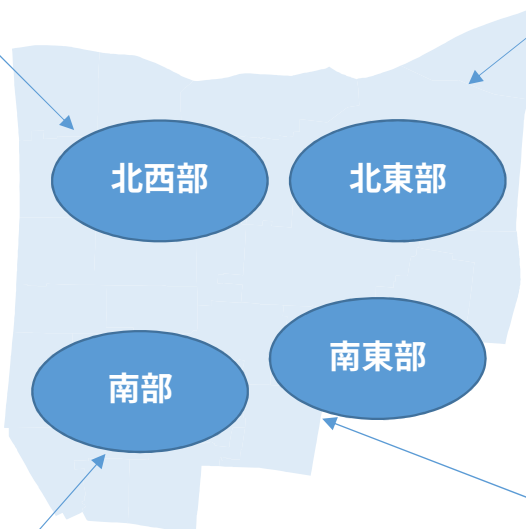


夜の御堂筋

「ミナミ」の愛称で呼ばれる「楽しみの街」。多くの人たちでにぎわう。



道頓堀



大阪城公園を中心に様々な文化施設があり、市民が憩い、内外からの観光客が訪れる。



大阪城

中寺・谷町界隈には、由緒ある寺社などが数多くあり、落ち着いた歴史の匂いが漂う。

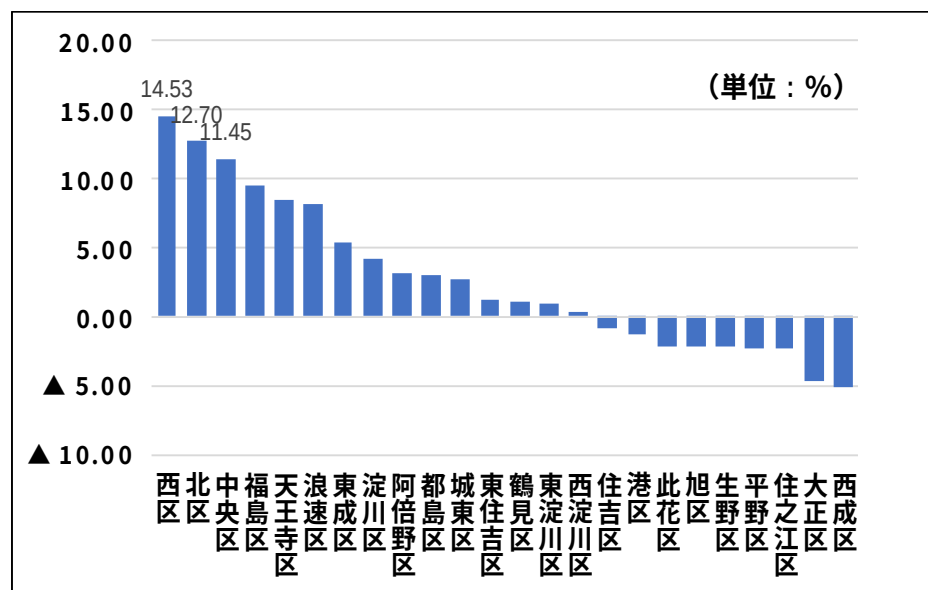


高津宮

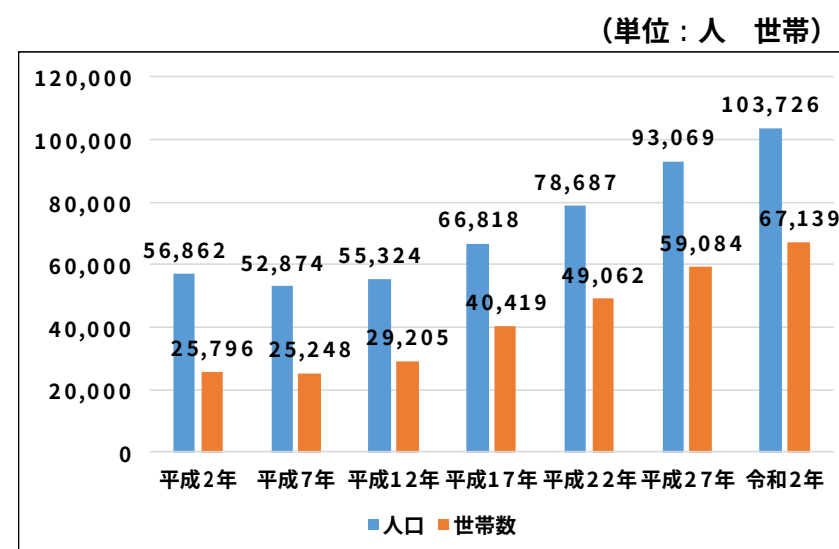
中央区の概要

■ 人口動向

人口増加率は、西区、北区について、市内で3番目に高い比率となっており、30年間で区の人口は、1.8倍、世帯数は2.6倍と急増している。



(平成27年、令和2年国勢調査比較)



(各年国勢調査)

中央区の概要

■ 人口動向

中央区における総人口及び年齢別人口（15歳未満、65歳以上、75歳以上）の推移をみると、いずれの年齢階層も人口は増加している。また、その内、外国人人口も増加しており、多国籍化している。

	総人口			15歳未満			65歳以上			75歳以上		
	総人口	うち外国人	比率	総数	うち外国人	比率	総数	うち外国人	比率	総数	うち外国人	比率
平成12年	55,324	2,664	4.8%	4,810	180	3.7%	10,253	146	1.4%	4,276	48	1.1%
平成17年	66,818	4,352	6.5%	5,071	171	3.4%	12,181	359	3.0%	5,509	138	2.5%
平成22年	78,687	4,261	5.4%	6,129	201	3.3%	13,215	311	2.4%	6,215	102	1.6%
平成27年	93,069	2,155	2.3%	7,952	119	1.5%	15,371	236	1.5%	7,055	79	1.1%
令和2年	103,726	7,294	7.0%	9,557	454	4.8%	15,654	481	3.1%	7,582	163	2.2%

※平成12年、平成17年外国人数は、無国籍、国名「不詳」を含む

（各年国勢調査）

令和4年3月31日
外国人人口 … 8,545人
（住民基本台帳）

国・地域別外国人人口（令和4年3月末現在）

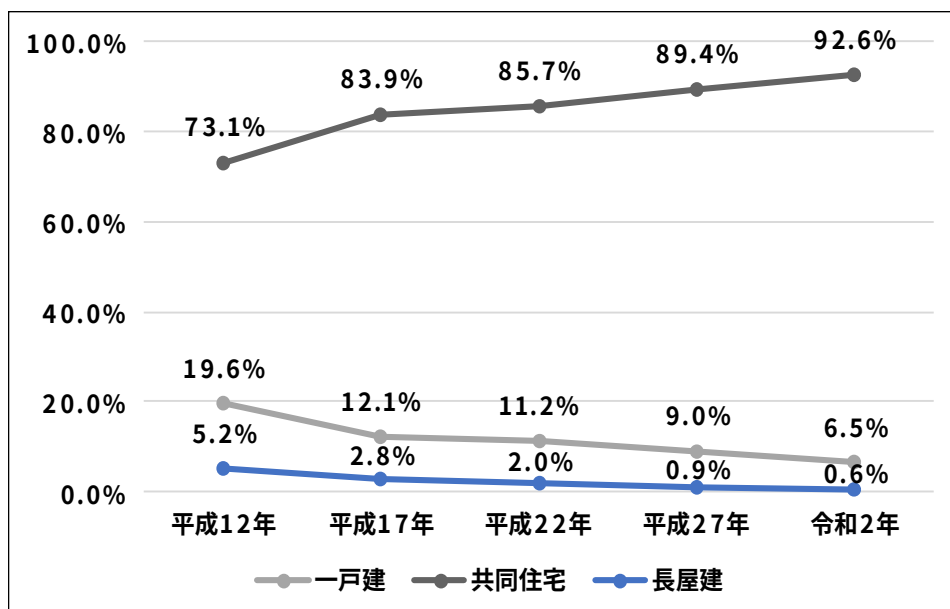
中国 3,264人
韓国・朝鮮 2,514人
台湾 515人
フィリピン 513人 など

中央区の概要

■ 住宅

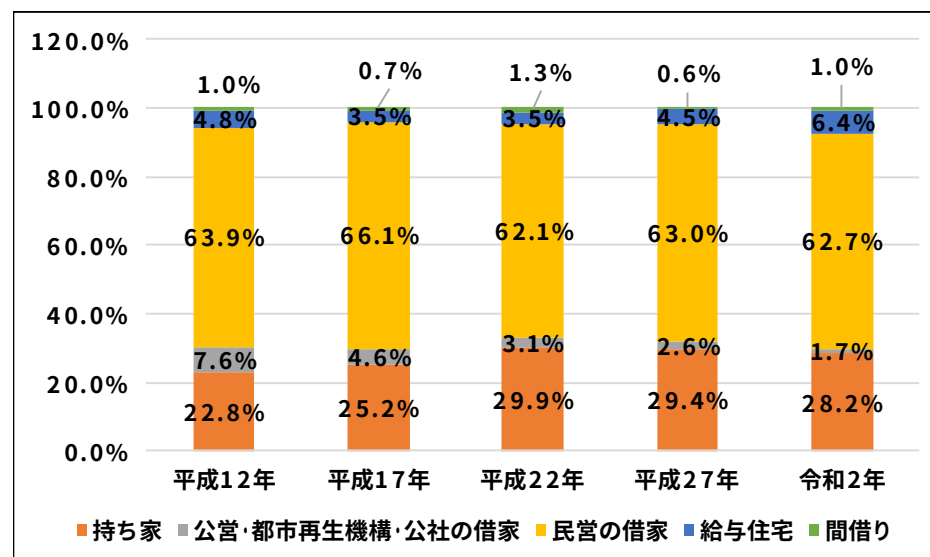
中央区の住宅に住む一般世帯の内訳の推移をみると、共同住宅に住む世帯の比率が9割を超える。

中央区の住宅に住む一般世帯の内訳



(各年国勢調査)

共同住宅の所有形態の構成（比率、世帯数）の推移



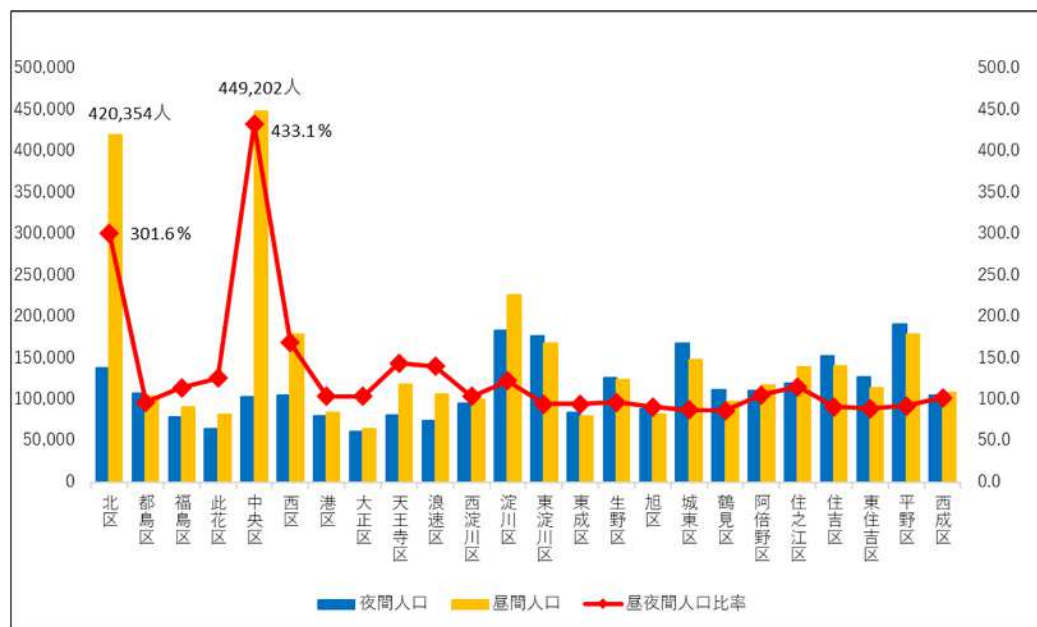
(各年国勢調査)

中央区の概要

■ 中央区の経済

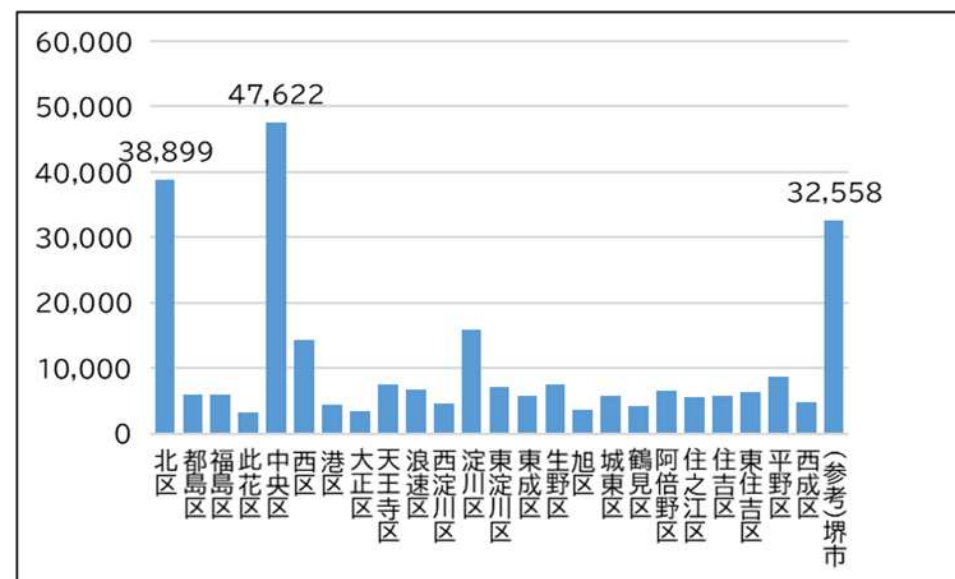
昼間人口は、449,202人と市内で一番多く、事業所数についても市内で一番多い。

区別夜間・昼間人口及び昼間人口比率



令和2年国勢調査

事業所数（事業内容等不詳を含む）



令和3年経済センサス活動調査（速報集計）

まちづくりの方針

1 私たちがめざす将来像

大阪を代表するビジネス・観光の拠点として多くの人で“にぎわい”
繰り返し訪れたくなる魅力的なまち
豊かなコミュニティのもと“ふれあい”支え合う、ずっと暮らし続けたい
まち
それが、私たちのめざす中央区です。

まちづくりの方針

2 基本方針 “ゆるやかにつながるまち”

- 中央区にはこれまで培われてきた豊かな地域コミュニティがあります。
- 一方、急速な転入増により、地域との関りが薄い住民層が増えたことから、これまで、こうした層が地域コミュニティに参加していくよう、取り組んできました。
- しかし、参加の広がりには十分に進んでおらず、ライフスタイルや価値観の多様化を背景に、より柔軟なつながりのあり方が求められています。



マンション等共同住宅の居住者が9割を超える中央区の特性をふまえ、住民同士のセーフティネットの構築にもつながるよう、それぞれのマンション住民・管理組合・管理会社（マンションコミュニティ）と、行政、地域コミュニティがゆるやかにつながり連携する“ゆるやかにつながるまち”を各施策共通の考え方とし、めざす将来像の実現に取り組んでいきます。

まちづくりの方針

3 基本方針に沿ったまちづくりの柱

1

繰り返し訪れたくなる
にぎわいのまち

2

安全・安心で快適に暮らせる
まち

3

子どもの未来を
みんなで育むまち

4

誰もが幸せに暮らせる
まち

めざすべき将来像と戦略の方向性

柱1 繰り返し訪れたくなるにぎわいのまち

めざす将来像

まちの魅力が高まり、内外から多くの人が繰り返し訪れるにぎわいに
あふれたまち

めざすべき将来像と戦略の方向性

柱1 繰り返し訪れたいくなるにぎわいのまち

1-1 にぎわい

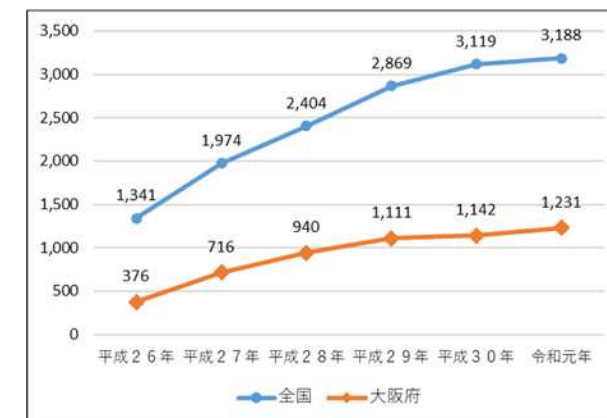
現状

- 中央区は古くから大阪の経済・文化の中心地として国内外から多くの人々が訪れるまち。区はその魅力の発信に取り組んできている。
- 近年は、大阪城や道頓堀などの観光地に多くの外国人観光客（インバウンド）が訪れ、活況を呈してきた。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大による国内観光需要の激減（インバウンド消失、国内旅行者数の半減）により、中央区のにぎわいも深刻なダメージを受けている。

課題

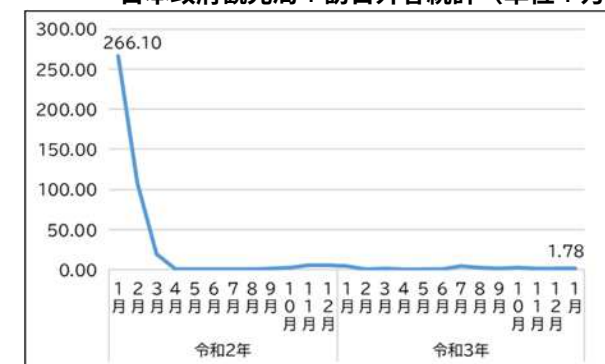
- ダメージからの「再生」に取り組む商店会、企業、関係団体等と連携・協働し、「再生」とさらにその先をも見据え、地域が活性化し、持続的にまちがにぎわうよう取り組んでいく必要がある。

訪日外客数と来阪外国人旅行者数の推移（単位：万人）



※令和2年のデータについては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、独自集計に使用するデータが不足している為、計測を行っていない。
(大阪府観光統計調査)

日本政府観光局：訪日外客統計（単位：万人）



めざすべき将来像と戦略の方向性

柱1 繰り返し訪れたいくなるにぎわいのまち

1-1 にぎわい

戦略の方向性

多彩な魅力の創出と情報発信による
持続的なにぎわいづくり

商店会や企業、関係団体等と連携・協働し、地域や近隣に住む人々に愛され、内外から多くの人々が「繰り返し訪れたいくなる」魅力を創出する。

2025大阪・関西万博の開催機運の高まりとも連動させながら、歴史や文化に彩られ、なおもダイナミックに変容していくまちの魅力を国内外に戦略的に発信していく。



PR動画
夢幻旅 幻視大阪in中央区



魅力発信イベント
にぎわいスクウェア

めざすべき将来像と戦略の方向性

柱2 安全・安心で快適に暮らせるまち

めざす将来像

「自助」「共助」を中心とした災害に強いまち、区民が自らの
まちに愛着を持ち、安全・安心で快適に暮らせるまち

めざすべき将来像と戦略の方向性

柱2 安全・安心で快適に暮らせるまち

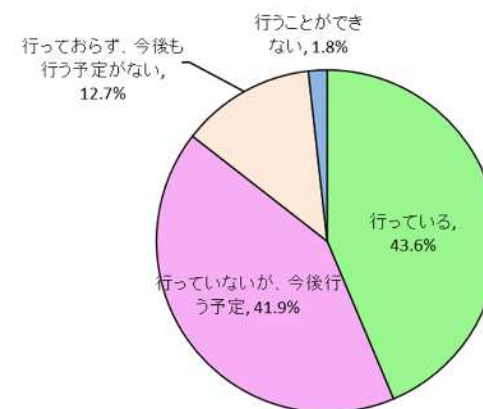
2-1 防災

現状

- 防災への関心は高く、大規模災害時における「自助」「共助」の重要性は浸透しているが、家庭での家具転倒防止や備蓄、地域・自治会の防災訓練への参加といった具体的な防災行動に至っていないことが多い。
- 地域と関わりの薄いマンション居住層の参画が広がらず、地域コミュニティの希薄化に伴って地域防災力の向上が図りにくい。
- 中央区は大阪市内で最も昼間人口が多く、昼間に大規模災害が発生した場合には多くの人が帰宅困難になることが想定されている。

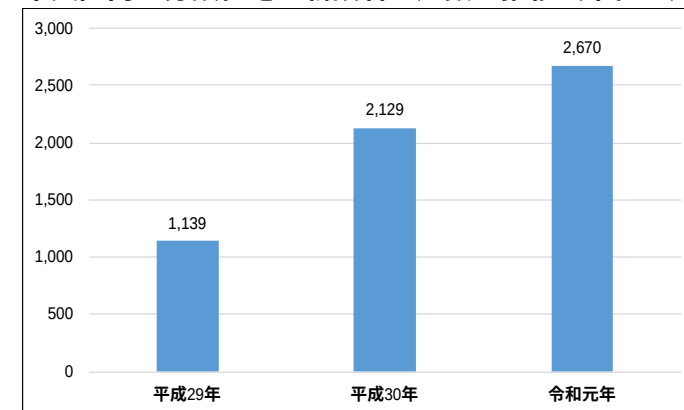
課題

- 大規模災害に備え、区民の防災対策が、マンション居住者の多い中央区の特性に応じた具体的な防災行動につながるよう、さらなる普及啓発が必要である。特に、地域と関わりの薄いマンション居住層へのアプローチ手法を新たに構築する必要がある。
- 昼間の災害発生に備え、企業等と連携・協働を進めていく必要がある。



大規模災害に備え、飲食料の備蓄や家具の転倒防止等の取り組みを行っているか（R3区民アンケート）

中央区内の分譲住宅の新設着工戸数の推移（単位：戸）



※令和2年から市区町村別集計の公表なし（住宅着工統計調査）

めざすべき将来像と戦略の方向性

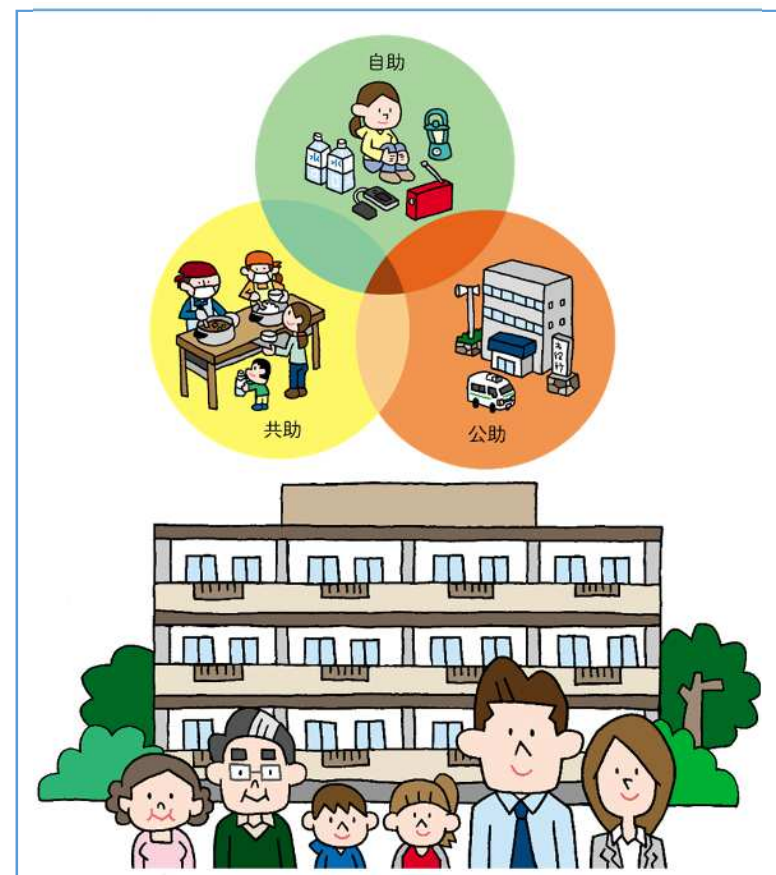
柱2 安全・安心で快適に暮らせるまち

2-1 防災

戦略の方向性「マンション防災」を軸とした災害に強いまちづくり

共同住宅居住層が9割以上という区の特徴に応じ、マンション固有の防災対策の必要性を啓発普及することでマンションコミュニティの防災力を高める。

さらにこうしたマンションコミュニティと地域の防災組織、企業とをつなげ、災害に強いまちづくりを実現する。



めざすべき将来像と戦略の方向性

柱2 安全・安心で快適に暮らせるまち

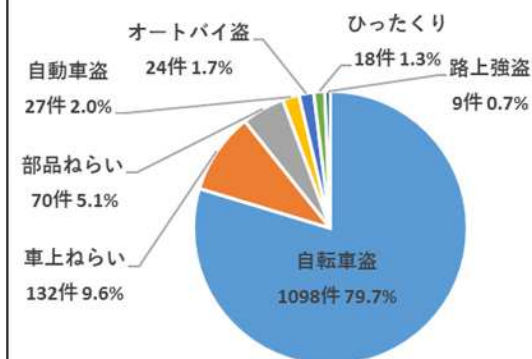
2-2 防犯・環境浄化 現状

- 中央区の街頭における主な犯罪の発生率は大阪市内ワースト1（令和3年集計）である。また、高齢者を狙った特殊詐欺も手口が巧妙化し、被害額が増大している。
- 放置自転車台数は減ってはいるものの、危険な走行とも合わせて自転車利用に関わる苦情、路上喫煙やポイ捨て等まちの環境美化に関わる苦情が多く寄せられている。

課題

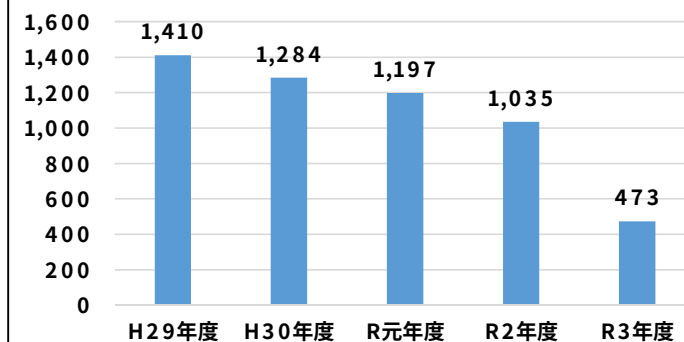
- 犯罪被害を防ぐため、区民の防犯意識をより向上する必要がある。
- 万博開催に合わせた路上喫煙禁止エリアの拡大をふまえた対策を行うとともに、自転車利用の適正化等まちの環境美化にかかる区民の意識をより向上する必要がある。

街頭における犯罪の発生率（令和3年中）



（大阪府警データ）

放置自転車台数調査結果の推移



（建設局データ）

めざすべき将来像と戦略の方向性

柱2 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり

2-2 防犯

戦略の方向性 まちを愛する区民とつくる安全・安心で快適に暮らせるまち

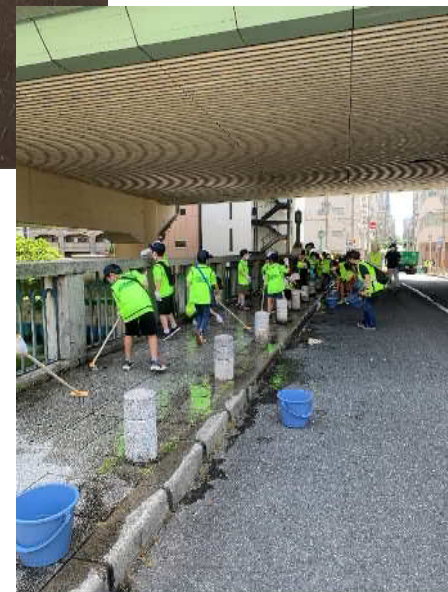
地域や自らのまちに愛着を持つ区民のみなさんとともに安全・安心で快適に暮らせるまちづくりに取り組む。

関係機関と密に連携し、被害の多い犯罪について重点的に区民に広報啓発することにより、防犯意識を高め、犯罪抑制に取り組む。

関係機関と連携し、喫煙所の設置など路上喫煙対策に取り組む。



防犯キャンペーン



橋洗い

めざすべき将来像と戦略の方向性

柱3 子どもの未来をみんなで育むまち

めざす将来像

未来の担い手であるすべての子どもがすこやかに成長するよう、子育て家庭が安心して子育てができるまち
誰一人取り残されることなく、未来を切り拓く力を培っていきけるよう、子どもたちの学びを応援するまち

めざすべき将来像と戦略の方向性

柱3 子どもの未来をみんなで育むまち

3-1 子育て

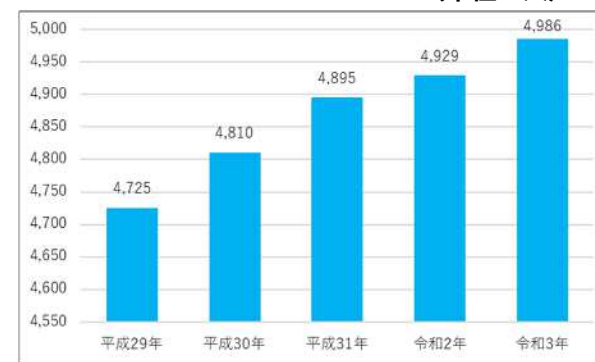
現状

- 中央区では子育て層が急増しているが、その多くがマンションに居住し、かつ居住年数も浅いことが推定される。
- 核家族化が進行し地域との関わりも薄い中、周囲に相談相手が見つからず保護者が一人で不安や悩みを抱え孤立してしまうことが懸念されている。
- 共働き世帯が増加し、保育ニーズがますます高まることが予想される。

課題

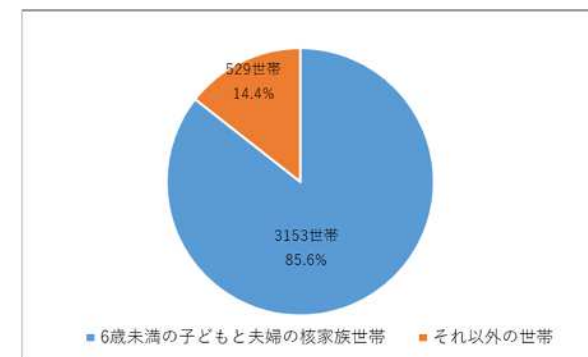
- 保護者が孤立せず、安心して子育てできるよう仲間づくりや気軽に相談できる場が必要である。
- 児童虐待の懸念や子どもの貧困等、外からは見えにくい家庭内の課題を早期に見つけ支援につなげる必要がある。
- ニーズに合った保育サービスを提供する必要がある。
- 子育て支援情報を必要なすべての人に届ける必要がある。

中央区の6歳未満（0～5歳）人口の推移
（単位 人）



（各年住民基本台帳）

中央区の6歳未満の世帯員のいる一般世帯のうち、夫婦のいる核家族世帯



（令和2年国勢調査）

めざすべき将来像と戦略の方向性

柱3 子どもの未来をみんなで育むまち

3-1 子育て

戦略の方向性 安心して子育てができる環境づくり

商業施設やマンションコミュニティと連携することにより、子育て世帯のニーズに沿ったより交流・相談しやすい場を提供するとともに、地域とのつながりを促進し、子育て家庭を見守る体制をさらに充実していく。

また、必要な人にしっかりと子育て支援情報を届け、安心して子育てができる環境づくりに取り組む。



キッズスペース
カンガルーポッケ
(保健福祉センター)



子育て応援サークル
パンジーひろば

めざすべき将来像と戦略の方向性

柱3 子どもの未来をみんなで育むまちづくり

3-2 子どもの学び

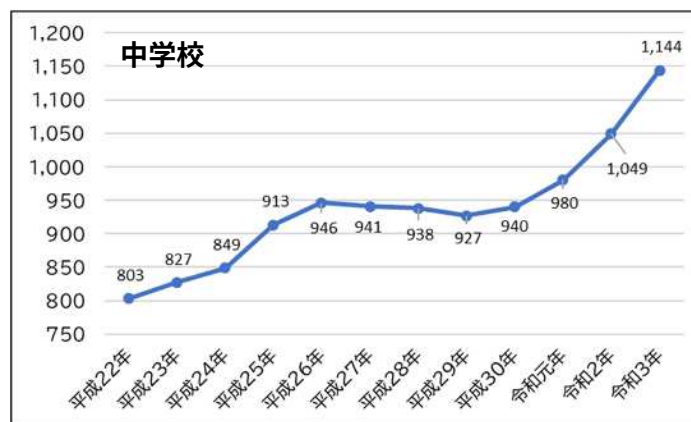
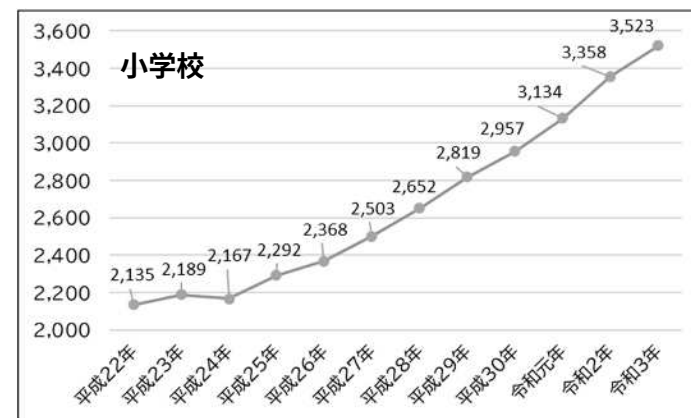
現状

- 区内の子どもの数が増加する中、外国につながる児童・生徒をはじめ、様々な支援を必要とする子どもたちも増加している。
- 子どもたちの学びを取り巻く環境は複雑化しており、学校園での取組だけでは困難な課題も生じている。

課題

- 学校園の実情に応じた学習環境づくりの支援が必要である。
- 外国につながる児童・生徒等は多様な背景を持っており、学習支援だけでなく、本人や保護者が地域で孤立しないよう多様な支援が求められる。こうした複雑な課題解決には、社会全体での取組が求められている。

中央区内市立小中学校における児童生徒数の推移
(各年学校基本調査：各年5月1日現在)



めざすべき将来像と戦略の方向性

柱3 子どもの未来をみんなで育むまち

3-2 子どもの学び

戦略の方向性 子どもや学校を応援する学びのネットワークづくり

区内で学ぶ児童・生徒らが、自らの持つ可能性を広げ、未来を切り拓く力を培っていけるよう、学校園のニーズに応じた学習環境づくりの支援を行う。

さらには、学校・地域・大学・文化施設・企業等が連携協働し「子どもの学び」を応援する「地域ぐるみの学びや活動のネットワーク」づくりに取り組んでいく。



専門家による
リズムダンスで
体力UP！



中央区ゆかりの
文楽について学ぶ

めざすべき将来像と戦略の方向性

柱4 誰もが幸せに暮らせるまち

めざす将来像

長い歴史の中で培われた豊かなコミュニティを礎に、価値観の多様化やライフスタイルの変化の中にあっても、人々がそれぞれを尊重しながら、つながりふれあい支え合う、誰もが幸せに暮らせるまち

めざすべき将来像と戦略の方向性

柱4 誰もが幸せに暮らせるまち

4-1 地域コミュニティ

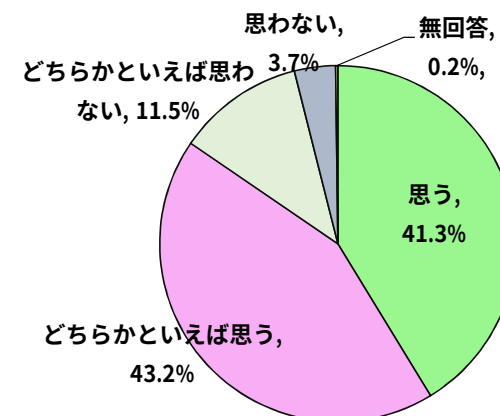
現状

- 中央区においては長く培われてきた豊かなコミュニティがあり、地域活動協議会をはじめ様々な地域団体により地域活動が行われているが、高齢化や参加者の減少により活動の担い手が固定化している。
- 区民の多くが近所どうしのつながりは大切であると考えている。一方で、転入出が多いことなどから、地域のつながりのきっかけが無い層・関心が薄い層が増えており、地域活動への参加を促すべく取り組んできているが、その結果は十分とはいえない。

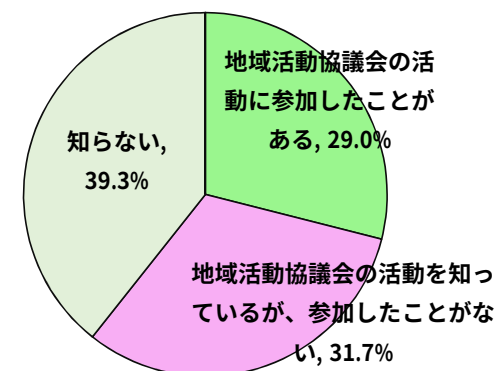
課題

- これまで培われてきた豊かなコミュニティが今後もまちの礎となるよう、地域の事情に合わせ引き続き支援する必要がある。
- 中央区の住民の9割以上がマンションに居住していること、価値観の多様化やライフスタイルの変化をふまえ、これまでとは違うより柔軟なつながりのあり方が求められている。

ご近所どうしの人のつながりが大切であると思うか
(R3区民アンケートより)



地域活動協議会について (R3区民アンケートより)



めざすべき将来像と戦略の方向性

柱4 誰もが幸せに暮らせるまち

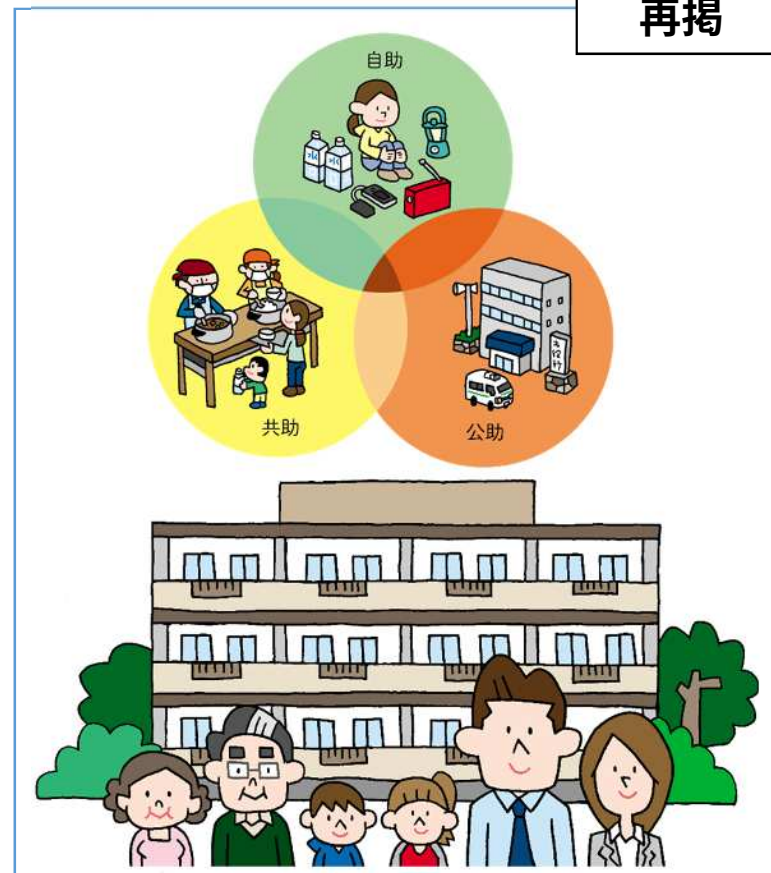
4-1 地域コミュニティ

戦略の方向性 つながりふれあう豊かなコミュニティづくり

これまでの地域への支援を継続するとともに、防災や子育て支援等マンションコミュニティのニーズに応じた行政情報を共有する。

そこから地域の防災活動や見守り活動などとの連携をはかり、それらの体験や学びを通じてゆるやかなつながりを促進していき、区民のまちへの愛着を育む。

再掲



めざすべき将来像と戦略の方向性

柱4 誰もが幸せに暮らせるまち

4-2 地域福祉

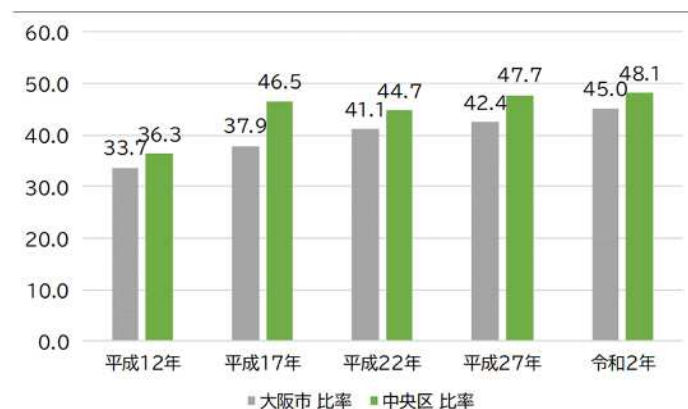
現状

- 中央区の65歳以上を含む高齢者世帯は増加しており、そのうち約半数が独居世帯である。今後、認知症などにより医療と介護双方を必要とする高齢者の増加が見込まれる。高齢者や障がい者等の見守り活動について、7割近くが知らない。また、コロナ禍で外出を控えることで、孤立化や体力の低下、認知症の進行が懸念される。
- 何らかの支援を必要とする人及びその家族においては、社会から孤立し支援につながらない、または複合的な課題を抱え支援が困難となるケースが増えてきている。

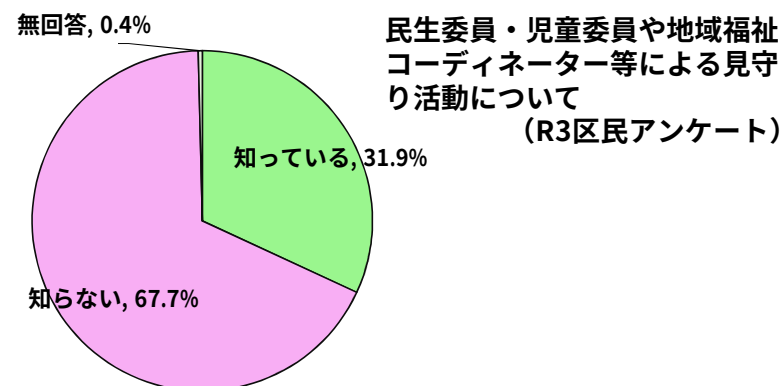
課題

- 高齢者が孤立せず自分らしく安心して暮らせるよう地域での居場所づくりや見守りなどの支援を広げるとともに区民にしっかりと周知していく必要がある。
- 健康寿命を延ばすとともに、医療や介護が必要となっても自宅で暮らしていけるよう地域包括ケアシステムの強化が必要である。
- 支援を必要とする人達が「誰一人取り残されず」支援につながるよう行政機関・地域・区民が一体となって取り組む必要がある。

■65歳以上を含む世帯に占める単独世帯の割合（単位：％）



（各年国勢調査）



めざすべき将来像と戦略の方向性

柱4 誰もが幸せに暮らせるまち

4-2 地域福祉

戦略の方向性 健やかでいきいきと暮らせる
まちづくり

地域コミュニティや医療・介護事業者等が連携・協働した地域包括ケアシステムの強化に取り組むとともに、「災害時の安否確認や高齢者等避難支援」について、マンションコミュニティにアプローチし、日頃の見守り、地域との連携につなげていく。

また、すべての区民に「見守りのしくみや支援に関する情報」を届け、必要な時につながることができるよう、誰もが誰かを「気にかけて、つながり、支え合える」まちを実現する。



見守り活動
声かけ訓練



介護予防
いきいき百歳体操

施策を推進していくために

区役所のミッション

寄り添う

区民に寄り添い、気かけ、気づき、必要な支援につなげられるよう職員の福祉マインド力を強化します。

発信する

ビジョンの施策展開に沿った戦略的な情報発信と、区民の声を区政に反映するしくみを充実します。

向上する

生活の質向上を実感いただけるよう、ICTを活用し行政サービスの利便性を向上します。

協働する

公民連携を推進し、企業や大学等教育機関がもつ力をまちづくりに生かします。